



始良市温泉センターくすの湯は、 地球温暖化対策として、 木質バイオマス利用によるCO₂排出 削減に取り組んでいます。

くすの湯では、平成26年度に県の事業を活用し、薪(まき)を燃料とする『木質バイオマスボイラー』を導入しています。

スギやヒノキの間伐材を燃料にすることで、地球温暖化の原因になる化石燃料(重油など)からの二酸化炭素の排出を削減し、地球環境の保全に貢献しています。

間伐材は、始良西部森林組合が市内の森林で生産したものを使用しており、地域資源の有効活用にも貢献しています。



平成27年4月から平成29年9月の2年半で、1,119tの間伐材を燃料として使用し、

480tの二酸化炭素を削減しました。

樹木は、光合成を行うことにより大気中の二酸化炭素を吸収・固定しています。

森林から生産される木材を、エネルギーとして燃やすと二酸化炭素が発生しますが、この二酸化炭素は、森林の伐採後に植林することで、その成長の過程で再び樹木に吸収・固定されます。

このようなことから、重油や天然ガスといった化石燃料の代わりに木材を利用することは、二酸化炭素の排出の抑制につながり、地球温暖化防止に貢献します。

